

まんが王国・土佐推進協議会 令和元年度第2回総会（概要）

日 時：令和2年2月25日（火）13：30～15：00

場 所：オーテピア高知図書館 4階 ホール

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員 14名

オブザーバー 1名

監事 2名

（1）会長挨拶

（2）報告事項

次の報告事項について、事務局から説明の後、意見交換が行われた。

第1号報告 令和元年度（下半期）「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

・第6回全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐の概要

世界まんがセンバツ進捗状況

・令和元年度まんが王国・土佐ポータルサイトの運営状況

・令和元年度まんが教室の実施実績

・令和元年度まんが塾の実施状況

（3）議事

事務局から次の議案について説明があり、承認された。

第1号議案 令和元年度まんが王国・土佐推進協議会収支決算見込

第2号議案 令和2年度まんが関連事業計画（案）

及びまんが王国・土佐推進協議会収支予算（案）

第3号議案 まんが王国・土佐推進協議会会則の一部改正（案）

（4）協議事項

次の協議事項について、事務局からの説明の後、意見交換が行われた。

第1号協議 第29回全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）について

（5）閉会

次年度第1回総会は、2020年9月中旬を予定

第1号報告 令和元年度（下半期）「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

第6回全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐の概要及び世界まんがセンバツ進捗状況について

【吉村部会長】

- 全国漫画家大会議は開催の方向で準備するとのことだが、ゲストの漫画家の先生方の中には高齢の方もいるので、一抹の不安が残る。
- 声優トークショーへの県外からの参加者は、交通、宿泊を予約して来るため、（中止の発表が）遅くなるほどキャンセル料がかかる。そのため、何かあれば迅速に発信し、早く対応を行うべき。
- トークショーのファンはルールに従う素直な人が多い。マスク持参・着用、コールレスポンスの禁止などを発信し、可能であれば当日マスクを販売しても良い。

【A 委員】

- 今の子供たちは伝える力が弱まっており、子供の頃から伝える力を育てる必要がある。
- まんが文化の取組を県と地域の人が何年もかけて取り組んでいるのは稀な事例。
- 我々も県外に出たとき、取組をPRして、その輪が広がるように手伝いたい。
- ウィルス関係については、インフルエンザもあるため、いつまでという目安を作っても良かった方が良くと思う。

【B 委員】

- 「世界まんがセンバツ」を今年も審査して、世界を近くに感じることができてありがたい。
- 去年のセンバツと違っておとなしい、真面目な感じとなった。
- センバツの募集要項で、発想を限定してしまうような内容になっていたという話を聞いた。発想を限定しないような募集のかけ方をしていただきたい。
- 全国漫画家大会議が万が一中止になってもゼロにはしたくない。中止となり、やっていないけれどもやったような、何か足跡を残せるようにしたい。

【C 委員】

- 土佐のおきやくが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止となり、県民がっかりしている。全国漫画家大会議は安全策をとりながらやっていただきたいが、一刻一刻と事態は変わってきているので、難しい問題でもある。
- 「高知はまんが王国である」と、県民が胸を張れるようにすることはできないかと考えている。

【青木副会長】

- 色々なスケジュールの中で、（中止となった場合）どのような形であれば（部分的にでも）できるかの検討が必要。例えば、公開審査をネット配信するなど。
- リスク分析を行い、リスクシナリオを作ることも必要かと思う。

【D 委員】

- 現在、各種イベント（東京）の実施の可否が取り沙汰されている。準備にもお金がかかっているのでは簡単にはやめられないが、今回だけでなく、将来にわたって「イベントを実施して何かあったときにどうするか」のリスクをしっかりと踏まえてやっていくべき。

第2号議案 令和2年度まんが関連事業計画(案)及びまんが王国・土佐推進協議会収支予算(案) 令和2年度まんが関連事業計画(案)全体について

【オブザーバー（文化庁）】

- まんが関連事業計画を見て、ここまで総合的にやられているのはすごいと思う。
- 一番素晴らしいのは、人材育成の場として重きを置いているところである。
- まんが塾やまんが教室は、学校の授業の中でもやっていって良い取組だと思う。

【E 委員】

- 県民にどれだけ「まんが王国・土佐」が、浸透しているかが問題。
- 高校生への授業で「まんが王国・土佐」の話をしたとき、「まんが王国・土佐」を知っている人は一人もいなかった。
- 例えば、まんが甲子園に父兄を巻き込んだ形で実施する、まんが塾の作品を広報誌に掲載するなど、県をあげ、県庁全体としてまんが塾やまんが教室の成果を利用するなどの方が良い。
- 今のところ、「高知まんがBASE」は描くことを趣味とする人に偏っている感じがする。そうでない人たちにも来てもらえるような取組をしていった方が良い。

【青木副会長】

- まんが甲子園が間もなく30回を迎え一区切りとなる。今後どうつなげて行くかということと、まんが甲子園を発展させるということが必要。高校生のニーズ・意識調査など。

【吉村部会長】

- まんが塾やまんが教室で訪れた際に「まんが王国・土佐」のステッカーなどを配るのも良いと思う。
- 「まんが」は平仮名、カタカナ、漢字によって印象が違う。
- 「まんが」はよく見るまんがだけでなく、アニメやゲームも含まれると思う。
- まんが甲子園を（色々な競技がある）「まんがのオリンピック」としても良いのではないかな。

【B 委員】

- （県として）人材育成など色々な取組をしているが、高知新聞でもまんが道場で高校生部門がある。しかしながら、応募してきてくれるのは岡豊高校のみ。県の取組もそういったところと絡めていくなどコラボしていった方がよいのではないかな。

第 29 回まんが甲子園について

【F 委員】

- 総文祭では参加生徒・先生合わせて約 2 万人、観客を含めると約 10 万人が来県する。
- 第 44 回は開催県で独自で決められる協賛部門に、「まんが」部門が入る。これは 44 回の総文祭の歴史の中で初めてである。
- 各県から、まんが甲子園の選考について総文祭の協賛部門となったことで、これまでとの違いが生じるのかといった問い合わせが来ている。
- 全国から注目が集まっていることを考えると、発信していくいい機会であるといえる。
- 「まんが王国・土佐を知っている学生が多くない」という事を再認識し、発信し直していかなければならない。

【G 委員】

- まんが甲子園には流れが来ている。
- 新学習指導要領で伸ばすことが求められている要素がまんが甲子園には入っている。
- 第 44 回総文祭では、県教委の名前が入った封筒で（予選作品の募集案内などを）送る。
- 教育的効果についての PR 冊子を制作しており、予選作品の募集案内と一緒に送る。
- 顧問の先生に知ってもらい、大会の報告書もしっかりと作って発信していくべきである。

【オブザーバー（文化庁）】

- まんがを総文祭の部門とすることは他県だと難しいことだと思う。
- （学校現場においては）一人 1 台パソコン、またはタブレットを支給するという話が出ており、それをどう使うかを検討中である。そういった中、美術などで活用することもありかと考える。

【H 委員】

- まんが甲子園への出場は、現在の 3 つの国と地域以外は難しいのか。30 回の記念大会はその枠を外して、全世界から募集しても面白いのではないか。

【吉村部会長】

- 海外からの出場に関して、その国で渡航費などを支援してもらえる国は、順次応募可能としていけばよいのではないか。

【I 委員】

- せっかく総文祭、第 30 回と続くので、そこを活かすべき。
- まんが甲子園は見応えがあり、最新の技術も見れるので、他部門への周知を徹底してほしい。

【J 委員】

- 第 30 回に向けて、また違った支援をすることができればとも考えているので、相談しながらやっていきたい。

まんが王国・土佐の情報は新拠点「高知まんがBASE」について

【D 委員】

○新しい拠点ができると言うことは、「行こう」というモチベーションにつながるので、期待できる場所。

【E 委員】

○拠点の建物の外観は敷居が高いイメージ。外観を変えるのは難しいが、内装はもっとまんがで柔らかく、県・課を超えてデザイン性の高い物に工夫して行ってほしい。

【H 委員】

○拠点のオープンをしっかりと告知し「映える施設」となるべき。例えば、刀剣乱舞のようなキャラクター（刀剣乱舞の中で高知にゆかりのあるキャラクター）を壁一面に描くなど。